

国立教育政策研究所委嘱

平成26・27年度魅力ある学校づくり調査研究事業

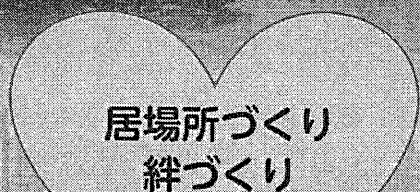
山の田中学校区 小中一貫して取り組む 魅力ある学校づくり



生野小学校



山の田中学校



居場所づくり
絆づくり

9年間の学びの
つながりをめざして



山の田小学校

「魅力ある学校づくり」調査研究事業とは

家庭教育や地域社会の変化に伴い、学校や地域が直面する児童生徒の生徒指導上の諸問題はますます多様なものとなっている。こうした中、小学校及び中学校における不登校児童生徒の人数は、依然として高い水準で推移しており、これら児童生徒の将来の社会的自立にとって大きな課題である。

不登校やいじめ等の未然防止を推進するため、教育委員会と連携し、児童生徒の豊かな人間性や自ら学び考える力などの「生きる力」を育成する「魅力ある学校づくり」について、調査研究を実施する。

拠点校 下関市立山の田中学校

〒751-0838山口県下関市山の田本町8番1号

TEL 083-252-0488

FAX 083-252-0974

E-mail yamanota-chu@edu.city.Shimonoseki.yamaguchi.jp

連携校 下関市立生野小学校 下関市立山の田小学校



居場所づくり

魅力ある学校



絆づくり

児童生徒が自己肯定感・自己有用感がもてるような
授業づくりと集団づくりをめざして

課題解決に向けての取組の3本柱

関わりあいのある
授業づくり

兼務教員がつなく
小一中連携

コミュニティ・スクールの
活用と連携

1年目

- ・学習活動に充実感をもてない児童生徒が多い
- ・人間関係をうまく築くことのできない児童生徒が多い

課題の設定

2年目

- ・人間関係をうまく築くことのできない児童生徒が多い
- ・教職員の意識の高揚と確実な共通実践が不十分である

児童生徒の実態把握

意識調査・各種アンケート・諸テストの結果分析

山の田中学校区がめざす「魅力ある学校」づくりに向けて

不登校やいじめはいつでも、誰にでも起こりうるため、全ての児童生徒を対象とした取組を進める。年3回の児童生徒を対象とした意識調査をベースに、各種アンケート・諸テスト等を利用して結果分析をし、児童生徒の実態を把握して課題を設定する。課題解決に向けての3本の柱「関わりあいのある授業づくり」「兼務教員による小一中連携」「コミュニティ・スクールの活用と連携」を中心に目標を設定し、取組の視点をしぼり、年間の行動計画を立てて実践していく。意識調査ごとに教職員チェックシートを用いて教職員の振り返りを行う。振り返りは、「学級」「学年」「学校」「校区内」の4つの視点から行い、数値から児童生徒の実態を把握する。短い周期でPDCAサイクルをまわして検証することで、児童生徒の実態に応じた取組を確実に行うことができる。

推進するための組織

魅力ある学校づくり推進委員会

県教委 市教委有識者 PTA会長

調査研究委員会 年3回 3校校長連絡会 毎月1回 3校担当者連絡会 毎月1回

3校合同企画推進委員会(管理職・各主任・担当) 年2回(6月・1月)

兼務教員

生野小推進部

山の田中推進部

山の田小推進部

よりよい関わりあいをうみ、ともに学びあうことのできる
児童・生徒の育成

各校校内研修

各校事業担当、研修主任会議

にじいるネット協議会

3校合同研修会
年3回
7月・10月・1月

3校合同
事業担当、研修主任会
毎月1回

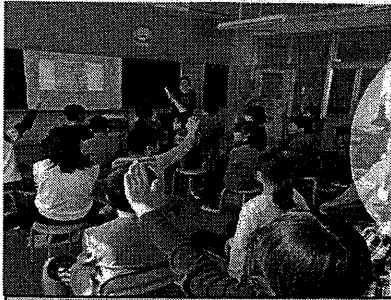
協議会年4回
企画推進委員会年2回
領域部会年2回
等

「魅力ある学校づくり」 推進組織

小中3校の校内の研修主題を同じにし、本事業と校内研修をリンクさせることで、小中一貫した取組をめざしている。

さらに現在、山の田中学校区が3校合同で推進している「にじいるネット」という名称のコミュニティ・スクールとつながることで、校区の児童生徒を学校とともに育てていこうとする気運が高まっている。定期的に関係者が集まり、児童生徒の変容や取組状況を確認し、確実な共通実践が行えるように努めている。

兼務教員がつなぐ小一小一中連携



外国語活動

週に1日ずつ各小学校に勤務し、6年生の外国語の授業を担当している。授業の中で、中学校での英語授業のビデオや英語の作品を紹介することで、中学生になる意識づけも行っている。

児童と授業で関わることで、集団としての力や個人の情緒面の変化、リーダー性、協調性を細かく観察することができ、小中の情報共有に役立っている。



交流行事

中1ギャップ解消に向けて「中学生体験」を行っている。2つの小学校を合体させて仮学級をつくり、中学校教員による授業を3教科受ける。その後、体育館で、合同音楽授業やふれあいタイムを行っている。入学前の児童の一番の不安は「違う小学校の人と仲良くなれるか」ということ。行事後の振り返りでは児童の悩みが解消している結果が出ている。



小中合同 教科別 研修

「9年間の学びのつながり」と「小中の教職員のつながり」を目的に4月の校内研修オリエンテーションをはじめとし、3校の校内研修は兼務教員が主導し、各学校の研修主任と協力して行っている。

3校の様子が見える兼務教員が目的達成のためにどんな研修が必要かを提案し、研修を行っている。27年度3学期は小中の教科別研修会を行い、成果が見られた。



小中教員 合同授業

中学校教員は「早く関わる」、小学校教員は「長く関わる」を目標に、授業の入学前の授業参観や入学後の小中教員による合同授業を行っている。

また、行事の際には、小学校教員からの励ましのメッセージや小学校時の写真を掲示し、9年間の学びのつながりを意識した取組を行っている。



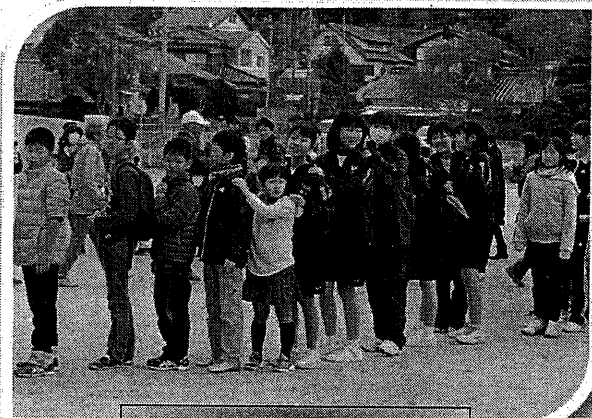
メッセージ カードの 交換

ハロウィンやクリスマスなどの行事を利用して、2校の小学校のメッセージカードの交換を行っている。「修学旅行で会えるかな?」や「中学校になったらよろしくね」など、新しい仲間への期待が感じられる。また、2月から各小学校で卒業プロジェクトを企画し、お世話になった先生方へ感謝と成長した姿を披露する場を設けている。

コミュニティ・スクールの活用と連携



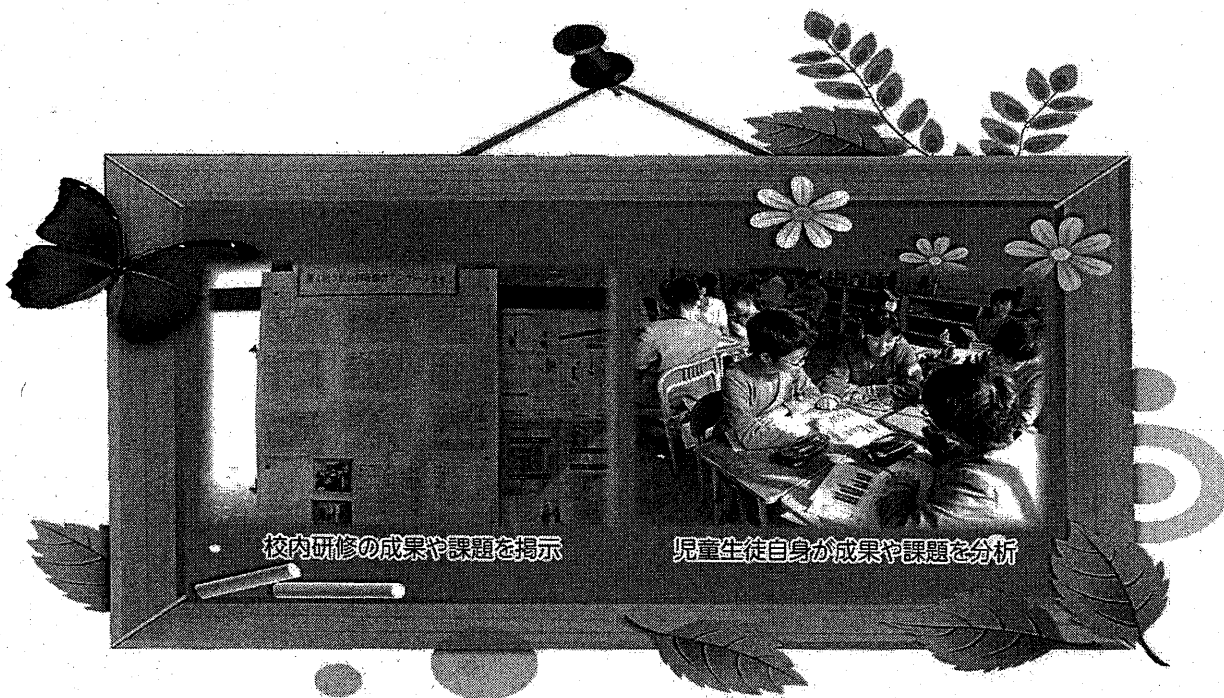
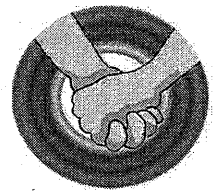
熱議



クリーン作戦後のふれあい活動

地域も巻きこんだ共通実践

コミュニティ・スクールのメンバーが、「子どもの学び」「心の教育」の2つの部会に分かれ、3校の目標達成に向けて地域からの支援も受けている。コミュニティ・スクールで応援団を募集し、清掃活動や絵本の読み聞かせ、学習支援など地域の方との関わりあいは人間関係づくりの構築に生かされている。

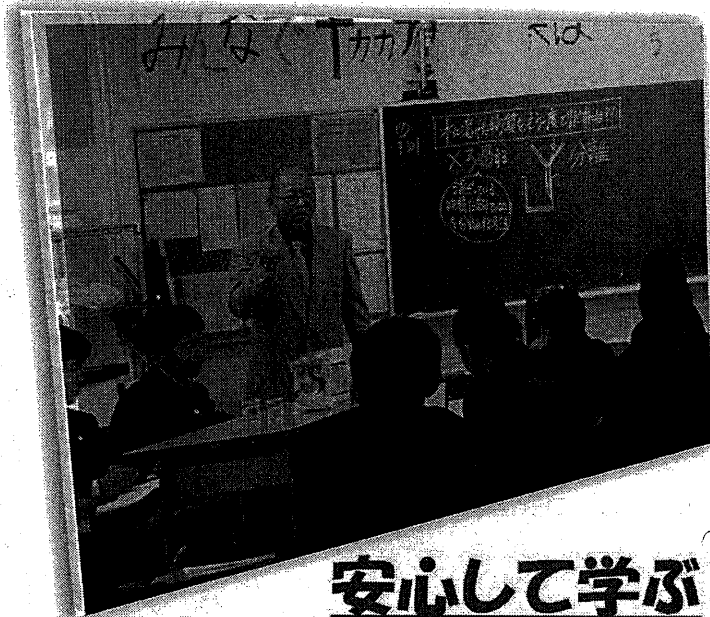


校内研修の成果や課題を掲示

児童生徒自身が成果や課題を分析

成果を見えるかたちに

「関わりあいのある学び」を取り入れた授業実践



安心して学ぶ

仲間から学ぶ

友達の意見をきちんと聞くことができる

自分の意見をきちんと伝えることができる

わからない時に「わからない」教えてと言える

「関わりあい」(協同的な学び)を組織するために

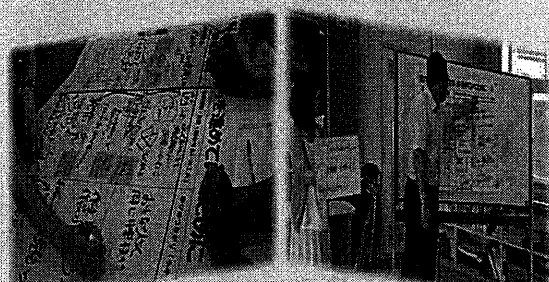
3校の研修主題でもある「よりよい関わりあいをうみともに学びあう児童・生徒の育成」のために小中一貫して「関わりあいのある学び」を進めている。すべての児童生徒の学ぶ権利を保障するとともに、より高いレベルの学びに挑戦する機会を提供するため、ペア学習や男女混合4人組での少人数による「関わりあい」の場を設定し、全体の意見交流では、コの字型の授業形態も導入している。

3校合同研修会



学期に1回確実な共通実践をめざし、3校合同研修会を実施している。小中の文化の違いからつながりにくい教職員を「何を合わせて何をあえて合わせないか」「できないのではなく、何ならできるのか」「どうやってつながり、どうやったら広がったか」を検証しつつ、見方・考え方の転換に努めている。研修後の教職員の意見を参考にしながら、研修会のもちかたも学期ごとに変えることで、教職員にも「やってよかった」と思える研修になるように工夫している。

校内研修会



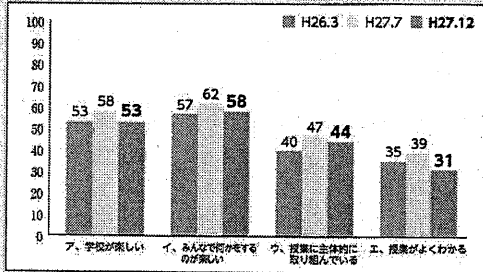
「関わりあいのある学び」を進めていくにあたって、取組の成果・課題・今後の改善点をグループに分かれて「熟議」を行い、その結果を交流・共有し更なる組織的で具体的な動きをつくることに努めている。「熟議」を通して教職員が「関わりあい」を体験することで、授業づくりにおいてより一層の効果上げている。「熟議」のスタイルは3校同じにし、各学校の研修には他の2校の事業担当者、研修主任、管理職・市教委担当主事も参加するなど研修の成果が上がるように努めている。

～意識調査から～

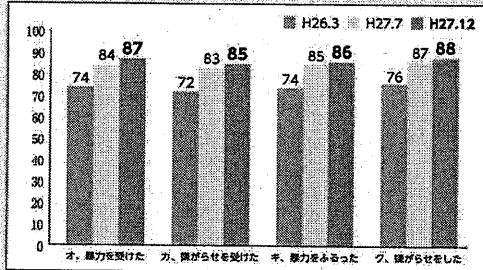
平成26年3月から平成27年12月までに計3回のアンケートをとり、児童生徒の変容を調査した結果です。

《山の田中学校全体》

【1. 当てはまる】と答えた生徒の割合

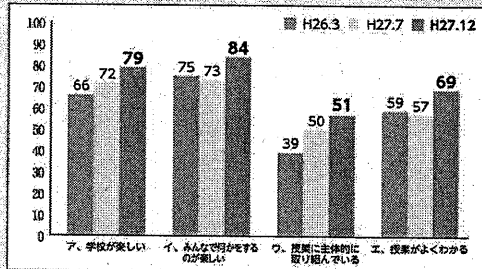


【1. まったくなかった】と答えた生徒の割合

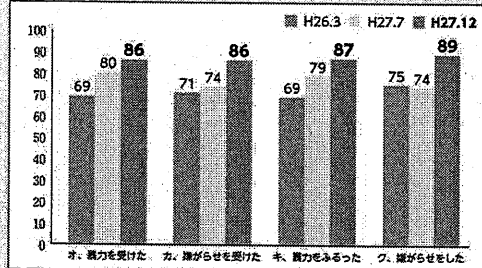


《山の田小学校全体》

【1. 当てはまる】と答えた児童の割合

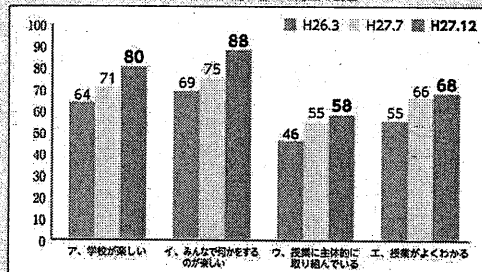


【1. まったくなかった】と答えた児童の割合

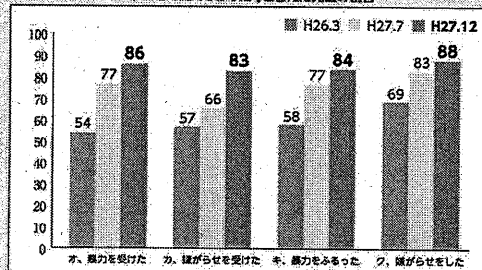


《生野小学校全体》

【1. 当てはまる】と答えた児童の割合



【1. まったくなかった】と答えた児童の割合



<A>…主要意識調査項目

- ア 学校が楽しい…学校生活への満足度
- イ みんなで何かするのが楽しい…集団への適応と充実感
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる…学習への意欲
- エ 授業がよくわかる…学習での充実感・達成感

…いじめにつながる要因

- オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした
- カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられた
- キ 叩いたり、けったり、強く押されたりした
- ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせた

(A)

1. 当てはまる
2. どちらかといえば当てはまる
3. どちらかといえば当てはまらない
4. 当てはまらない

(B)

1. 全くなかった
2. 今までに2～3回あった
3. 月に2～3回あった
4. 週に1回以上あった



成果

- ・3校の研修主題を同じにし、小中一貫して「関わりあいのある学び」のある授業に取り組んできたことで、「聴き合う関係」を構築することができた。
- ・3校合同研修会や児童生徒の交流を通して、小中の教職員のつながりが深まり、9年間の学びのつながりに向けての共通実践を行うことができた。



課題

- ・各教科において、それぞれの特性に応じた「関わりあいのある学び」の研修が必要である。
- ・取組の継続に向けての組織づくり、山の田中学校区スタンダードの構築に努める必要がある。